

地震発生時の対応学ぶ



松山学院高校生地元住民と防災訓練

松山学院高校の生徒と地元住民らの合同防災訓練が14日、松山市北久米町の同

校であり、生徒約470人と久米地区の住民ら計630人が協力して災害時の対応を練習した。

同校によると、訓練は5年ぶり6度目。参加者は南海トラフ巨大地震が発生したとの想定で、運動場などに避難した後、グループに分かれ、消火や救出、救命などの訓練・体験を実施。

地域住民との合同防災訓練で、AEDの使い方の注意点などを教える松山学院高の生徒(右)＝14日午前、松山市北久米町

生徒と住民による段ボールベッドの設営や、調理科生徒による非常食を使った弁当調理もあった。

救命講習では、看護師を目指す看護科専攻科の1年生が心臓マッサージや自動体外式除細動器(AED)

の使い方などを住民に指導。見本を示した後、実践する住民に「テンポよく一定のリズムで心臓マッサージをしてください」などとアドバイスしていた。

心肺蘇生法を指導した同科1年堀内さくらさん(19)は「普段は専門用語を使うので、伝える難しさがわかった。住民の皆さんが熱心

に励んでくれたので、役立てたと思う」と感想。久米地区自主防災組織連合会の玉井徳雄会長(73)は「職業科の多い高校があるのは災害時に心強い。今後も定期的な合同訓練をお願いしたい」と話した。

(宇和上翼)